

## データ分析の理論と応用 執筆要項

1. 原稿は、日本分類学会の定める LaTeX 形式のスタイルファイルおよび MS Word 形式のテンプレートを利用して執筆する。
2. 和文要旨は 500 字以内、英文要旨は 250 語以内とする。また、5 個以内の日本語および英語のキーワードをつける。
3. 句読点は原則として全角の「。」および全角の「,」を用いる。
4. 「section, subsection」, 「1, 2, 3」, 「Yokoyama et al. (2009), Okada and Imaizumi (1987)」のように英数字の語句が連続する場合、その間の読点は「,」（半角カンマ+半角スペース）とする。
5. 数字は原則として半角アラビア数字を用いる。ただし、「均一」, 「唯一無二」, 「通り一遍」など日本語の成句として使われている場合には全角和数字を用いる。「ただ 1 つ」, 「3 通り」, 「第 1 に」などは半角アラビア数字を用いる。
6. 括弧は原則として半角を用いる。その場合、左括弧の前や右括弧の後に空白を入れる。ただし、括弧中に二重に入れる場合は全角括弧を用いる。
  - ・・・である (横山, 2010).
  - 右括弧の直後に句点があるため、右括弧の後には半角スペースを入れない。
  - ・・・である (例えば, 横山 (2010)).
  - 外括弧は全角で、横山 (2010) の括弧は半角。なお、下記 8 も参照のこと。
7. 本文および数式において、変数は斜体、行列とベクトルは直立体の太字とする。
8. 参考文献の書き方および本文での引用の方法は American Psychological Association (2001). *Publication Manual of the American Psychological Association* (5th ed.). Washington, DC: American Psychological Association. に従う。参考文献は著者のアルファベット順・年代順とする。なお、参考文献および引用に用いる丸括弧、カンマ、ピリオド、スペースは全て半角を用いる。

### 〈参考文献の書き方〉

#### (1) 論文の場合

早川文代・馬場康維 (2002). 方言としての“まったり”の客観化—京都地方のアンケート調査および聞き取り調査—。日本家政学会誌, 53, 447–456.

Yokoyama, S., Nakayama, A., & Okada, A. (2009). One-mode three-way overlapping cluster analysis. *Computational Statistics*, 24, 165–179.

#### (2) 単行書の場合

Borg, I., & Groenen, P. J. F. (2005). *Modern multidimensional scaling: Theory and applications* (2nd ed.). New York: Springer.

Okada, A., Imaizumi, T., Bock, H. -H., & Gaul, W. (Eds.) (2009). *Cooperation in classification and data analysis*. Heidelberg, Germany: Springer-Verlag.

大隅昇 (1979). データ解析と管理技法. 朝倉書店.

(3) 編集書の一部の場合

大津起夫・松尾寛子 (2002). 尺度混在データのための主成分分析. 柳井晴夫・岡太彬訓・繁榘算男・高木廣文・岩崎学 (編), 多変量解析実例ハンドブック (pp. 648–658). 朝倉書店.

Baba, Y., & Nakamura, T. (2002). Time dependent principal component analysis. In S. Nishisato, Y. Baba, H. Bozdogan, & K. Kanefuji, (Eds.), *Measurement and multivariate analysis* (pp. 155–162). Tokyo: Springer-Verlag.

(4) 翻訳書の場合

Blechman, E. A. (1998). 家族の感情心理学 (松山義則・濱治世, 監訳). 北大路書房. (原本は1990年刊行)

〈参考文献の引用〉文中での引用と括弧内での引用

(1) 著者1名の場合

馬場 (2009), (馬場, 2009).

(2) 著者2名の場合

馬場・岡太 (2009), (馬場・岡太, 2009)

Baba and Okada (2009), (Baba & Okada, 2009)

(3) 著者3名以上の場合

●初出時では

馬場・矢島・岡太 (2009), (馬場・矢島・岡太, 2009)

Baba, Yajima, and Okada (2009), (Baba, Yajima, & Okada, 2009)

●2回目以降では

馬場他 (2009), (馬場他, 2009)

Baba et al. (2009), (Baba et al., 2009)

(4) 翻訳本の場合

Blechman (1990/1998), (Blechman, 1990/1998)

(オリジナル版の発行年と翻訳本の発行年を表記する)

(5) 括弧内で複数の文献を併記する場合

(馬場, 2009; 馬場・矢島・岡太, 2009)

(著者のアルファベット順・年代順に並べ, 「;」でつなぐ)

9. 著者校正は初校のみとし, 印刷上の誤り以外は原稿への加除を認めない.
10. 編集および印刷時に特に費用を要する場合は, 著者の負担とする.
11. 最終稿の英文要約は, 専門家の校閲を受けたものであることを要する.